

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター すてっぷあいる			
○保護者評価実施期間	令和7年1月7日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	令和7年1月7日		～	令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月1日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析されたうえで個別支援計画が作成されている。	家での様子や困りごと、事業内での様子、園での様子の聞き取りを行い、多角的に見たうえで分析し、職員間で課題や支援内容の検討を行っています。	職員の研修等の充足を図り、職員の質を上げていくことで子どもの理解をさらに深めていけるようにしていきます。今後も保護者のニーズを把握していく為に、日々関係性の構築に努めています。
2	面談や子育てに関する助言が出来る。 子どもや保護者との意思疎通や情報伝達が出来る。	事業内での様子をお迎え時にお伝えすると共に、おうちでの様子の聞き取りを行い、日々保護者様との関係構築と、情報共有を心がけています。また、相談に対する回答について適切なアドバイスが行えるように、職員間で話し合っ検討を行っています。	的確な助言ができるよう、職員の質の向上を図るための研修を行って行きます。
3	子どものことを十分に理解し、子どもの特性に応じた専門性のある支援が行える	子どもの状況や様子を十分に観察し、理解に努めています。また、それを踏まえ支援内容を職員間で話し合い検討を行っています。さらに専門職(OT,ST,PT)に観てもらい専門的アドバイスを頂き、支援に繋げています。	職員の療育での専門性を高めるために、内部研修の充実を図ることを計画しています。 また、今後職員教育に力を入れ、質の向上を目指していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対する研修会や、情報提供の機会が少ない。	情報提供の周知が出来ていなかった。	事業所の入口に研修会のチラシを貼る事と、HUGの連絡等を通じて研修会の情報提供方法を検討していく。 引き続き外部講師により年2回の研修を実施していく。
2	園との交流や、地域での他の子どもとの活動する機会がない。	療育を受けている事を知られたくないご家族等もあり、地域での活動や園との交流に積極的になれない部分がある。 参加できる家族に限られてしまうことや、土曜開催等の場合の出勤できる職員が少ない為、対応が難しい。	園との連携の強化と、交流の場を設けることの提案を行っていく。 職員配置含め、検討をしていく。 地域でのイベント等を市なども連携し、検討を行っていく必要がある。
3	非常時の各種マニュアル、それに伴う訓練等の実施の情報の周知が出来ていない。	HUGに月の活動を掲載しているが、目につきづらく気づかない保護者も多かった。 また、各種マニュアルの周知は出来ていなかった。	玄関先の棚に設置し、常時閲覧可能な環境設定や、メールやHUG等の連絡ツールを使い情報の周知を徹底していく。